

3 前期計画(令和2年度～令和6年度)の振り返り

前期計画では、基本計画で掲げる3つの将来像と12の施策の基本的方向性の下、24の施策と44の事業を推進してきました。各施策の目標は概ね達成し、着実な事業進捗が図られており、財政状況についても、健全な水準を維持しました。

将来像	施策の基本的方向性	重点施策
【1】 水道システムの最適化	1 お客さまが実感できる良好な水道水質の実現	
	2 災害に強い施設・システムづくりの推進	管路更新のペースアップ
	3 被災時にも給水が継続できる体制の強化	
	4 水需要に合わせた施設の再構築	浄水場の再構築
【2】 持続可能な経営	5 アセットマネジメント ^{*1} によるライフサイクルコストの縮減	
	6 将来の更新財源確保に向けた水道料金等の在り方検討	水道料金等の在り方検討
	7 新技術導入等による業務の効率化・お客さまサービス向上	
	8 水道事業を支える人材の確保・育成及び組織体制の強化	
【3】 関係者との連携強化	9 お客さまとの双方向コミュニケーション充実による開かれた経営の実現	
	10 災害対応における地域・他の水道事業者・民間事業者との連携強化	関係者と連携した災害対応の充実
	11 本市の技術力・ノウハウ・ネットワークを活かした近隣水道事業者との連携強化	重点施策を含め、各方向性に基づき24の施策と44の事業を推進
	12 民間事業者・仙台市水道サービス公社との更なる協働	

(1) 主な施策の進捗状況

■ 前期計画における各施策については、計画期間全体を通して概ね計画どおりに推進してきましたが、入札不調等による管路更新工事等の遅れが発生したほか、新型コロナウイルス感染症の影響により水需要動向が流動的であったことに伴い、水道料金等の在り方検討のスケジュールを変更するなど、当初の計画から一部変更も生じました。ここでは、重点施策に位置づけている4施策の進捗状況について説明します。

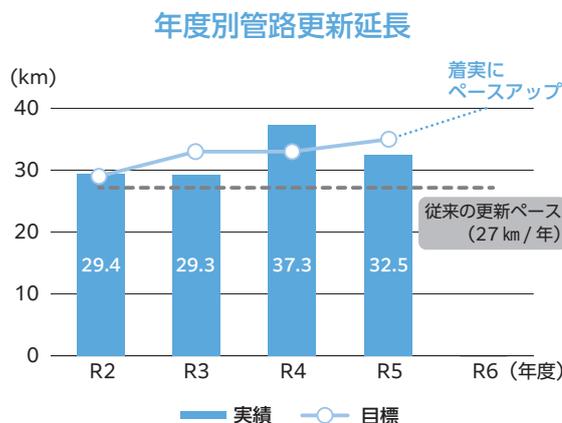
施策 2-1

管路更新のペースアップ

➔関連：P.17

■ 老朽化が進む管路の更新については、漏水の発生リスクや、地震等の災害発生時の被害を抑えるために、管路更新のペースを上げて、老朽化した管路の更新・耐震化を推進してきました。

■ 前期計画期間においては、令和2年度から令和5年度までの目標値の合計に対する達成率は98.8%となっており、概ね順調にペースアップを続けてきました。一方、令和4年1月に発生した水道管塗料メーカーの不正発覚問題^{*2}や入札不調等の影響により、目標に到達できなかった年度もあり、本計画においては受注者・発注者双方の負担軽減等に取り組む必要があります。



※1【アセットマネジメント】 資産の状況を的確に把握し、中長期的な予測を行うとともに、最適な補修や更新により施設を効率的に管理運営していくための手法。

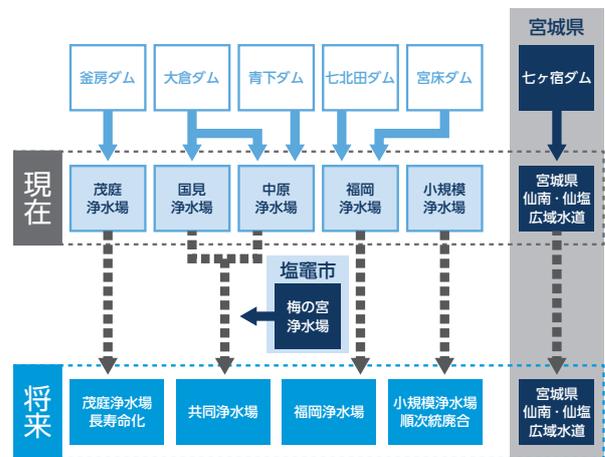
※2【塗料メーカーの不正発覚問題】 令和4年1月、塗料メーカー1社の水道管用の合成樹脂塗料に、認証機関である日本水道協会が認めていない原料が使用されていたことなどが同協会から発表され、全国の事業者でダクタイトル鑄鉄製品を使用した工事の一時停止等の動きが広がったもの。

施策 4-1

浄水場の再構築

→関連：P.21～22

- 将来的な人口減少に伴い、本市の水需要は更に減少する見込みであり、効率的な事業運営に向けて、施設規模の段階的な最適化を進めています。
- 国見浄水場及び中原浄水場の統合更新については、国見浄水場と導水施設を共同利用している塩竈市の梅の宮浄水場も更新時期を迎えることから、本市、塩竈市共同で浄水場を整備することとし、令和5年度より基本設計に着手しました。
- その他、茂庭浄水場の長寿命化や、小規模浄水場の一つである熊ヶ根浄水場の廃止に向けた取組も着実に進めてきました。

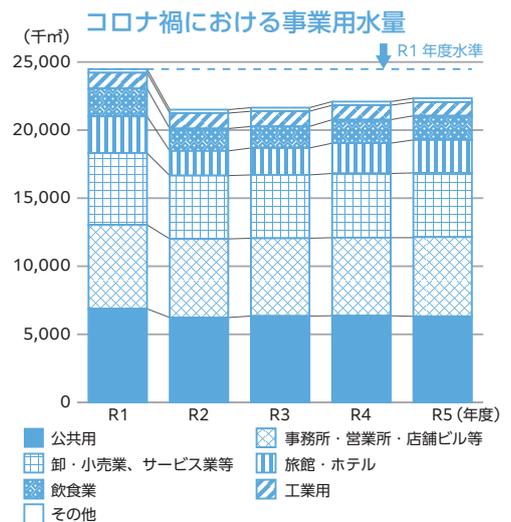


施策 6-1

水道料金等の在り方検討

→関連：P.25

- 今後人口減少社会を迎える中、仙台の水道を健全な状態で将来に引き継ぐために、適正な水道料金等の在り方について検討を進めてきました。
- 前期計画期間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により水需要動向が流動的であったことから、有識者等による「(仮称)水道料金等の在り方検討会」の設置は見送りましたが、大口使用者の地下水併用への対応については、市内の大口使用者の水使用動向の調査や他都市で導入している各種制度の調査・分析等を行いました。
- また、料金体系に関しては、他都市との比較や料金改定率を仮置きしたシミュレーションを実施することにより、本市の料金体系の現状分析と課題の洗い出しなどを実施しました。



施策 10-1

関係者と連携した災害対応の充実

→関連：P.31

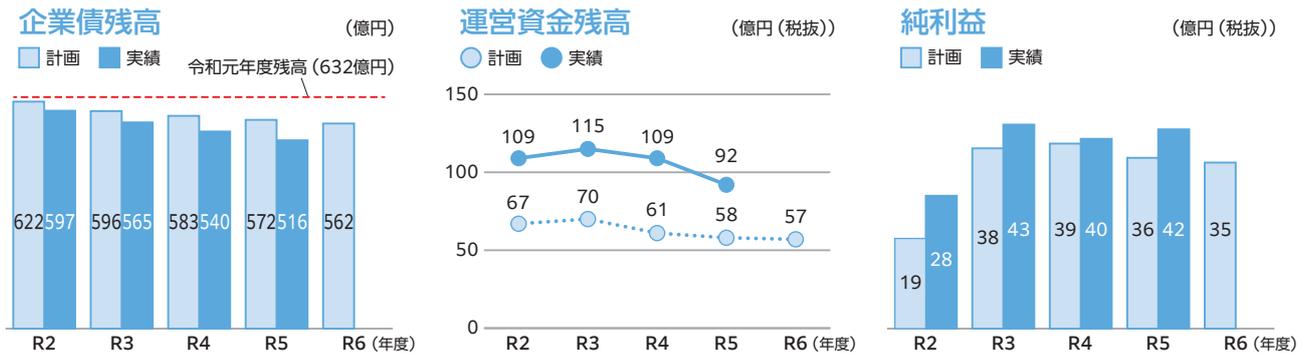
- 災害発生時においては、水道局による「公助」の取組だけではマンパワーに限界があるため、本市では、関係者との連携による災害時対応の充実を推進してきました。
- 地域との連携については、指定避難所に整備してきた災害時給水栓の活用に向けて、操作方法の周知等活用啓発を行いました。地域における災害時給水栓の訓練回数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していましたが、徐々に回復し、概ね順調に訓練を進めることができました。
- 他の水道事業者や民間事業者との連携については、合同防災訓練を行ったほか、他都市で災害が発生した際には、民間事業者と連携して応援派遣を行いました。



民間事業者と連携した復旧作業（令和6年能登半島地震）

(2) 財政運営の状況

- 水需要減少に伴う水道料金収入の減少が見込まれる一方で、施設の老朽化による更新事業費の増大等、水道事業を取り巻く経営環境は厳しくなる中、持続可能な経営を維持するため、基本計画で定めている「企業債^{※1}残高の縮減」「安定的な運営資金の確保」「純利益の確保」の3つの考え方にに基づき財政運営を進めてきました。
- 前期計画においては、新型コロナウイルス感染症の影響により水道料金収入が減少しつつも、計画を上回る企業債残高の縮減を図り、着実に運営資金や純利益を確保しています。



企業債残高については、令和元年度の企業債残高を超えない水準を維持することとしております。建設改良費が計画値を下回ったことに伴い企業債借入額が縮小したことにより、計画で見込んでいた以上に企業債残高の縮減ができており、令和元年度残高を下回る水準を維持しています。

運営資金残高については、持続可能な経営を維持できる資金を確保することとしております。令和2年度末の時点で事業精査等により建設改良費が計画値を下回ったことや各年度で計画値を上回る純利益を確保できたことなどの積み上げにより、計画値を上回る残高を確保しています。

純利益については、安定的な事業運営に必要な一定程度の純利益を確保することとしております。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、事業費の精査等により計画値を上回る純利益が確保できています。

(3) 経営指標の状況

- 前期計画の進捗にあたっては、日本水道協会の定めた規格である「水道事業ガイドライン」等に基づき、5年間で重点的に取り組む事業に関連する項目を中心に経営指標を設定しています。経営指標の達成状況は令和5年度末時点で、9項目中6項目達成しています。

指標	令和6年度末目標	令和5年度末実績	
本市独自の水質目標達成率	—	100%	99.9%
浄水場の主要施設の耐震化率 (耐震対策の施された主要浄水施設能力 / 全浄水施設能力) × 100	49.4%	65.0%	達成
管路の耐震化率 (口径50mm以上) (耐震管延長 / 管路総延長) × 100	35.0%	35.2%	達成
管路の更新率 (口径50mm以上) (1年間に更新された管路延長 / 管路総延長) × 100	0.94%	0.81%	
応急給水施設の設置割合 応急給水施設数 / (現在給水面積 / 100)	64.9 か所 / 100km ²	65.4 か所 / 100km ²	達成
災害時給水栓の訓練実施率 (1年間の災害時給水栓訓練回数 / 災害時給水栓設置箇所数) × 100	50%	33.9%	
経常収支比率 [(営業収益 + 営業外収益) / (営業費用 + 営業外費用)] × 100	100%以上	117.9%	水準維持
給水収益に対する企業債残高 (企業債残高 / 給水収益) × 100	300%以下	219.9%	水準維持
料金回収率 (供給単価 / 給水原価) × 100	100%以上	106.2%	水準維持

※1【企業債】 地方公営企業^{※2}が国等から借り入れる借金。

※2【地方公営企業】 地方公共団体の経営する企業。仙台市では水道局のほかに、交通局、ガス局、市立病院がある。経営の基本原則は常に企業の経済性を発揮するとともに公共の福祉を増進するように運営することで、運営に要する経費は原則としてサービスの対価である料金収入を充てることとなっている。

(4) 令和5年度お客さま意識調査結果

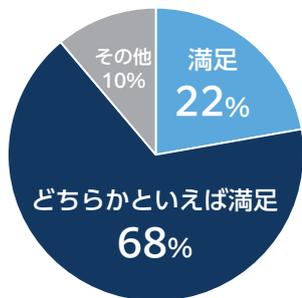
■ お客さまの水道事業に対するニーズや認知度等を把握し、本計画を策定する際の参考とするため、令和5年度にお客さま意識調査を実施しました。

■ 調査の結果、前回（基本計画、前期計画策定にあたり平成30年度に実施）と同様、本市の水道に対して約9割のお客さまに満足していただいております。高い満足度を維持できていました。その一方で、水道局の各施策については、前回に引き続き、低い認知度となっていたことから、お客さまの関心や理解の促進に向けて、積極的な広報活動を推進する必要があります。

調査概要

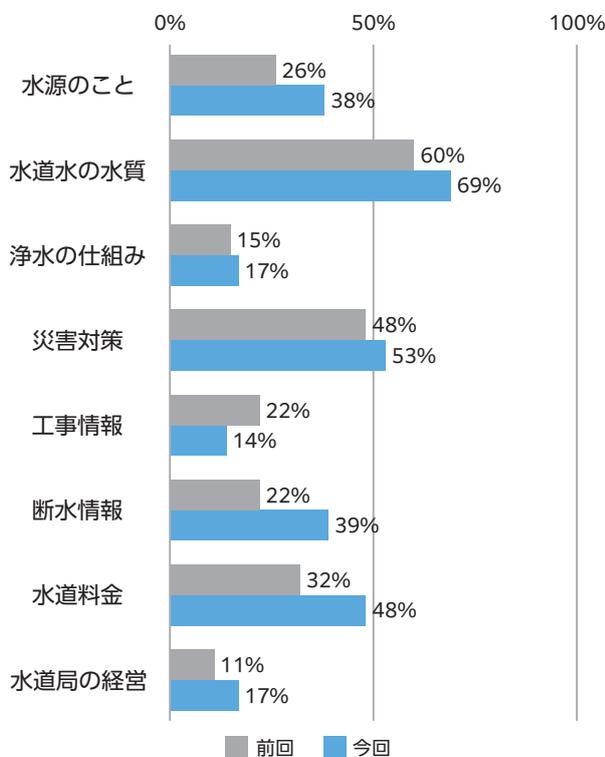
本市の水道を利用している一般家庭のお客さまから、無作為抽出した2,500世帯に対して調査票を郵送し、紙面もしくはインターネットにより1,232件の回答をいただきました。

仙台の水道に対する満足度



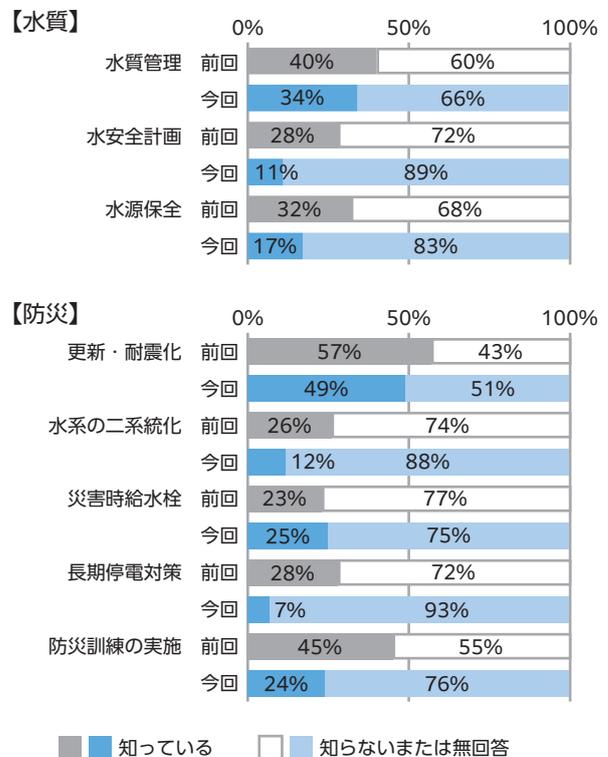
本市の水道に対して約9割のお客さまに満足していただいております、高い満足度を維持

水道のことで知りたいこと



水道水の水質に関して
お客さまからの関心が最も高い

各施策の認知度



水道局の各施策については、
前回調査と同様に低い認知度